

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	平成 25年 7月 25日	評価結果市町村受理日	平成 25年 10月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2775502194-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2775502194-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 9月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

質の高いサービスが提供できるよう研修会の参加や、自主的な勉強会を多く設け、認知症ケアの専門性の向上に向けて、又、利用者様が生き生きとした表情を少しでも多く見られるよう「優しく・親切・丁寧」「目配り・気配り・心配り」をモットーに日々研鑽しております。医療面では、母体の医療法人中谷クリニックと連携を密にしており、利用者様・家族様共に安心して頂ける環境にあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する開設9年目のグループホームです。母体の医療法人と連携を図り、利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で看取りに取り組んでいます。また、この数年、運営推進会議などを通じて地域とのつながりが拡がり、ボランティアや園児など、外部からの来訪者も多くなりました。職員は理念をもとに、利用者のできることを引き出し、声かけや見守りを行いながら自立を支援し、理念を日常のケアの場で実践しています。ごみ出し、新聞を取りに行く、花を育てる、庭の花を見に行く、夕涼みにベランダで過ごすなど、自由がきく環境や共に生活を楽しむ職員の姿勢が、利用者の日常生活の自立につながっています。また、その環境の中で、利用者同士、職員と利用者の関係が構築され、喜怒哀楽の感情も自由に表現でき、会話が弾み、笑い声が響き、利用者は笑顔で過ごしています。また、明るいつつたりとしたガラス張りのリビングから、広いベランダへ自由に出ることができる等、人的、物的な環境にも恵まれたグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成しており、事業所内に掲示している。日常的に確認し、常に意識を持つよう心掛け、前職員で共有し実践につなげるよう深く浸透するよう努めている。	目配り・気配り・心配りの「個別・自立支援」、優しく・親切・丁寧で「その人らしさを尊重」、地域と和合して「安全・安心」を理念に掲げ、職員一同理念の実現に向けて取り組んでいます。「笑顔の真ん中にはいつもあなたが」を職員は実践しています。フロアには、利用者同士の笑い声が響き、利用者、職員の笑顔があります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の方々と情報交換をしている。地域の方がボランティアとして来て下さったり、近くの保育園児とも定期的に交流している。 毎年、地域の「ふれあい祭り」にも参加している。	運営推進会議の参加者から協力を得て、コーラス・フラダンス・大正琴・ギター演奏・書道など、多くのボランティアがホームに訪れることにより、社会とのつながりが拡がりました。利用者も来訪者に対して、おもてなしや心配りをしています。また、地域の園児が定期的に訪問し、一緒に七夕の笹飾りや季節の作品を創作して壁に掲示するなど、楽しく交流しています。地域のふれあい祭りでは、ホーム専用の席を設けてくれるなど、地域にホームが周知され、交流を深めています。ホームも中学校の職業体験の受け入れや、地域の廃品回収に貢献しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する内部研修の資料より話をしたり、その時々話題になっているような事をお話しさせて頂いている。地域の方や参加者の質問にもお答えしている。又地域の方からの相談にも可能な限り支援の方法等、相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・高齢クラブ・民生委員・利用者家族・利用者に参加して頂き、2ヶ月に一回開催しています。サービス向上に向けた取り組みや実施したサービス、地域との交流、特に取り組んだ事などを報告し、助言・意見等を頂いている。その記録も回覧し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、規程・規約を作成し、2カ月に1回開催しています。運営推進会議は、利用者、家族、民生委員、高齢クラブ、市の職員で構成されています。会議では、グループホームの行事やホームが取り組んでいる学習会などを紹介しています。地域からは、地域行事の情報を得ています。運営推進会議で地域の消防団(防災会)との交流ができ、避難訓練などの助言が得られ、利用者の生活の安全につながっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課とは常に相談できる環境にある。運営推進会議の委員の推薦もして頂いている。	市の職員が中心となり、グループホームの連絡協議会が定期的に行われています。市や他の事業所と連携を図りながら、認知症の人が地域で安心して暮らせるように、空室の情報交換やホームの見学会など、サービスの質の向上に向けて交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内外研修にても周知徹底を図り、職員は身体拘束をしないケアをしっかりと理解しているが、暗証番号制のエレベーターに関しては、帰宅願望の強い方がおられ、職員の目が行き届く時間帯で開放する時間を設けている。今後も日中解除に向け、取り組んでいきたい。</p>	<p>研修を実施し、身体拘束や人権についての理解を深めています。玄関や各フロアのエレベーターは、可能な範囲で開錠しています。また、ベッドからの転倒防止や不安感を取り除くため、利用者の様子を見ながら拘束するのではなく添い寝をして対応したこともあります。リビングから、自由にベランダへ出られるようになっており、市街地やホームへの人の出入りなど眺め、開放感ある自由空間を提供しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内外での研修も参加しており、職員全員学ぶ機会を持っている。日々の生活の中で利用者の身体の確認もし、職員間で共有している。職員のストレスが溜まらない様何でもいえる環境になっている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に制度を利用されている利用者様がおられる。今後も必要性を関係者と話し合い活用できるよう支援していきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時には、面接にて疑問点や不安な事を十分に話し合い、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族様と気軽に話せる関係ができており、これからも要望が無いか常に聞くようにしている。玄関に意見箱を設置したり、面会簿にも意見を書いて頂くスペースを作っている。苦情受付窓口や市や府の窓口を重要事項説明書に記載している。	「ふれあい新聞」を発行し、通信欄も設けて、利用者のホームでの様子を家族に伝えています。家族の来訪時には、職員から積極的に働きかけ、家族が意見や要望を出せるよう努めています。家族交流会では、利用者と家族が一緒に居室のネームプレートを作成しました。交流会の場を設けることにより、家族間の交流や、職員とのより良い関係構築に取り組んでいます。また担当制を取り入れ、気づきノートを活用し、利用者の意見をできるだけケアに反映できるよう、カンファレンスで話し合っています。	更なるステップとして、今後家族へアンケート等を実施し、日頃の生活での要望などを確認されてははいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人よりの職員待遇セルフチェックリストを記入後管理者と個別に面接を行い、意見等を聞いている。又、月1回の全体でのミーティングでも発言できるように努めており、出された意見を反映させている。	管理者はセルフチェックリストをもとに、職員と面談を行い、要望や意見を聞く機会を設けています。法人として、人事に関する希望調査も行っています。また、管理者は職員にとって働きやすい職場環境を提供したいと考えており、利用者の受け入れや運営についても職員と話し合いながら進めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが専門職としての目標や充実感をもち業務に取り組めるよう研修や勉強会を開き意識向上を図っている。又、ストレスを溜めない様何でも話せる環境を作り、職員の定着に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での事業所間で研修を行ったり、資格修得への対策講座を開催したり、施設外での研修にも積極的に参加する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会グループホーム分科会や、大阪認知症グループホーム協議会に加入し、他施設の見学や情報交換・勉強会等に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化で本人の困っている事などを「気づき」として詳しく記録し、職員全員で統一した対応をできるようにし、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時はもちろん、面会時やサービス計画書説明時に本人の様子を伝え、家族様の不安、要望を汲み取るよう努め、利用者様を共に支える関係づくりに努めている。介護記録は、自由に閲覧できるよう声を掛け、希望があれば、コピーをして渡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」まず必要とされている支援を見極める為、じっくりと話を聞き、色々な提案ができるよう努めている。少し生活した段階で、どんな想いでいるかの再確認と改善もしていくように努めている。「本人像」を家族様に情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、家事の仕方や礼儀作法など入居者様より学ぶ機会も多く、日常生活の中で調理や後片付け、洗濯物たたみなどを協働にて行い、役割分担もほぼ定着してきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族背景も考慮しながら、対応方法やその時々本人の様子等を伝え、支援の仕方を一緒に考えている。入居者様にとって家族様は大きな存在なので、支援していく上で協力をお願いし、共に支えていく関係を続けていきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1階デイサービスの知人に会いに行ったり、馴染みの美容院などに行ったりしている。	入居前の生活歴を把握して、利用者を取り巻く関係について記録し、職員間で情報を共有しています。また、利用者の馴染みの喫茶店やスーパー銭湯、スーパーへの買い物、神社などの馴染みの場所に職員と一緒に出かけられています。友人からの手紙が届いたり、家族と一緒に出かける時間を大切にするなど、入居前までの関係継続を支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性・性格・相性をしっかり把握し、生活の場として楽しみ、心地よい場として過ごせる様支援している。利用者同士もお互いに支え合える関係ができています。利用者同士だけで関わるのが難しい時は、職員が間に入る事によってより良い関係を保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に応じる姿勢を示し、「いつでも遊びに来て下さい」と伝えています。現に利用者様が亡くなった後もご家族様がボランティアとして定期的に来苑してくれています。 毎年苑での「夏祭り」には、よさこい踊りを披露して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人像」に利用者の生活歴や趣味、特技など本人や家族から得た情報を記入し、職員全員が共有しながら毎日の支援に活用している。意思の疎通が困難でも日々観察し、表情などから把握するように努めています。	職員のサポートを受けながら、利用者は自治組織「白百合町会」を運営しています。利用者が司会をして、日々どのような暮らしをしたいか、行事の計画や遠足の場所などを話し合っています。職員は利用者の発言を記録に残し、一人ひとりの希望や意見の把握に努め、ケアに活かしています。昔の仕事や趣味を活かして、ハーモニカ演奏をする方、行事の掲示物を書で書く方、リビングの植木や蘭の花を育てる方など、一人ひとりの思いや希望を把握し、役割を持ちながら生活できるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からの情報、それまで生活し利用していた所からの情報提供や聞きとり、日々の生活の中での本人との会話の中から情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でいつどんな事をしていたか、どんな様子であったか等を細かく記録に残し、ナース指示ノート、連絡帳の確認、申し送りにより職員で共有し、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族、職員の意見を踏まえ、訪問看護師や主治医の意見等を合わせ、カンファレンス・モニタリングを行い、すべてのアイデアを反映させ、現状に即した介護計画書を作成している。</p>	<p>介護計画作成は、家族や利用者との話し合い、3～4ヵ月に1回見直しをしています。介護計画書に沿って日々実践し、毎月、利用者一人ひとりに対し、担当者及び職員が目標に沿って評価を行い、カンファレンスで全体の意見をまとめています。また、翌月に家族の訪問時、同意の署名・捺印をもらっています。毎月モニタリングを実施し、変化や課題の情報をつかんでいます。介護支援専門員もケアを通して、常に利用者に関わり、職員と共に情報収集し、介護計画に反映しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録を詳しく記入して情報を共有しながら声掛けや対応の方法を考えながら、ケアを実践し、「気づき」を詳しく記入している。記録上での気づきは、計画書の見直しにもとても重要である。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に合わせ、その都度相談し、本人や家族が望まれていることであれば、併設のデイサービスと連携して交流を行ったり、時にはサービスで言語聴覚士の指導など柔軟に対応している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院やすっきり顔なじみとなっているボランティアさんとの交流、保育園児との交流など楽しんでおられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、同法人より往診により健康管理を行っています。又看護師が月～土曜日にバイタルチェックや健康チェックのため訪問している。体調不良の早期発見や相談など24時間オンコールとされており、安心した生活を送っている。必要に応じ、他の医療機関への通院介助も行っている。	医療連携24時間オンコール体制を整えており、看護師による日常の健康管理、月数回の医師による診療が行われています。受診は、事業所の提携医を強制することなく、説明と同意を得て医療機関との直接契約となっています。利用者、家族の希望を大切にしています。入居以前からのかかりつけ医が、ホームへ往診に来てくれるようになった事例もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制になっており、訪問看護師に日々利用者の様子を伝え変化があれば、報告、相談している。受診が必要な場合は、家族様とも連携し、速やかに受診できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医師、看護師、相談員との情報交換に努め、ご家族も交え安心出来るような関係づくりを行っている。 随時様子を見に行き、関係者・家族様とも連絡を取り合い早期の退院を目指し相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針をもとに段階ごとに家族の意向を確認しつつ、苑として対応できる内容を全職員が把握し、実践できるよう医療の指示を仰ぐなど本人、家族にとって一番良い方法が取れるよう各関係者と連携し支援している。終末期に関する研修に参加し、伝達し、職員の知識と心構えを担うように取り組んでいる。	「緊急対応及び看取りに関する指針」を定め、入居時にホームの方針を説明しています。また、重度化により、必要が生じた段階で、医師や看護師の協力を得て「ターミナルケア同意書」の説明を行い、同意書を交わしています。利用者、家族の要望により、これまでも看取りに取り組みました。その都度、医療機関の協力を得て、終末期のケアの学習会を行っています。学習会を行うことで、職員が安心して利用者に関われるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの作成、事故発生時の対応に関する研修を行っている。 又、職員は救命救急講習に定期的に参加し、救命技能を修得するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練のうち1回は、消防署の協力を得て行い、利用者様と一緒に避難及び消火器の操作の訓練をしています。2ヶ月に一度ユニットごとに避難経路確認を利用者様と一緒にを行います。「災害対応マニュアル」もあり、災害時に備え、水・食料品などの備蓄を準備しています。	消防署の指導を受け、年2回以上の避難訓練を実施しています。消防訓練では、消火器の実演や利用者と一緒に非常階段を使用し、避難経路を確認しました。運営推進会議を通じて地域の防災会の協力も得られ、地域を巻きこんでの訓練を行うことができました。備蓄は各フロアで管理し、懐中電灯など2カ月に1回、点検を行っています。消火器やスプリンクラーが設置され、災害発生時のマニュアル、連絡体制も整っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり尊敬の思いを忘れることなく、個人個人に合った言葉掛けを考え対応している。排泄時の声掛けは耳元で行うようにし、さりげなく援助するように心掛けている。	職業倫理、利用者の人権やプライバシーの保護、コミュニケーションなどについて学習会を実施し、職員の意識を高めています。職員は、利用者のできることを引き出し、できるだけ自立できるように、目配り、気配り、心配りを忘れず、その人らしさを尊重したケアを心がけています。「植物を育てる」「新聞を読む」「音楽を楽しむ」「日に数回清拭」「書を楽しむ」など、利用者一人ひとりの生活や生き方を尊重し、そのための環境を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の表情や様子から思いを汲み取り、自己決定出来るように声掛けを工夫している。 本人が納得できるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースで過ごして頂いており、希望に沿って付き添っています。銘々居室で過ごしたり、ホールで塗り絵やカラオケをしたりと自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には、入浴時など衣服を選んで頂いている。ご自分で選ぶことのできない方には、着やすさ・気温等を基準に職員が選んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は、業者より食材を調達しているが、行事時や定期的に食材を止め、より楽しめるよう工夫している。準備、片付けには、日常的に入居者様の姿がある。ある程度役割分担も定着してきている。	昼食と夕食は業者から食材を購入していますが、朝食は近くのコンビニへ利用者と一緒にパンを買いに行きます。また、毎日業者からの食材で調理するのではなく、定期的にホーム独自で利用者の好みに応じてフロア毎にメニューを作成し、利用者と共に食材購入に出かけます。食事の準備は主に職員がしますが盛り分け、下膳、テーブル拭き等は利用者ができる範囲で行っています。台所の設えにも工夫があり、キッチンの中は広く、出入り口が2箇所作られて利用者が出入りしやすく、気軽に食事の準備に関わりやすい作りになっています。職員は利用者と同じものを食べながら、さり気なくサポートを行い、楽しい雰囲気ですらできるように支えています。日常会話の中から利用者の好みを聴き取り、おやつ作りや外食に出かけることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量や水分量については、体重を毎月測り、記録し把握している。状態に合わせ刻み食等の対応を行っている。職員も利用者と同じテーブルで食事をし、必要な方には、それとなく介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて介助を行っている。 自己にて行える方には、無理のない声掛けにて行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレに付き添ったり、声掛けを行ったりして失敗を減らすような対応を行っている。 トイレの中では、そっと見守るなどあまり行き過ぎないように気をつけている。	職員は細やかな排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣、仕草等、トイレのサインを把握しています。利用者のサインを見逃さず、さり気なく声をかけ、トイレ誘導を行います。トイレ内ではゆったりと見守り、職員が手を出し過ぎずに待ち、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握し、適切な運動と水分補給に注意し便秘にならないようにしている。 排便が出来ない時には、主治医、看護師と相談して、便薬にて調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節には、ゆず湯、菖蒲湯等の変わり湯や入浴剤などで楽しんで頂いている。お湯の温度も好みに合わせて調節したり、入浴も急がさずに本人のペースでゆっくりとできる様支援している。	基本的に2日に1回、週3回入浴を行っています。個人の希望にも常に対応し、毎日入浴や足浴をする利用者もいます。入浴剤を使用したり、柚子湯や菖蒲湯等、利用者がゆっくり楽しみながら入浴できる工夫をしています。今後利用者の重度化を想定して入浴方法等について検討を始める予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	居室での休息の時間を設けたり、 室内の温度や布団等、清潔に保 てるよう気をつけている。日中 の活動を増やし、夜間は心地よ く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	職員は全員、薬の目的や副作用 などについて把握するよう努力 している。薬の変更などで、症 状に変化がある時は、記録し 看護師への報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	苑の水やりを日課とし、毎年胡 蝶蘭を見事に咲かせて下さつた り、カラオケも定期的に楽しん で頂いたり気分転換等の支援を しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、散歩、外気浴へ行ったりしている。時には銭湯、足湯等を楽しむ事もあります。普段行けない所は、行事等で、全員参加し家族様にも協力して頂いている。	天気の良い日は、毎日順番で散歩に出かけます。近くのコンビニやスーパーへも買い物に出かけます。近所を散歩する途中で、地域住民から声をかけられたり、挨拶を交わしたりする楽しみもあります。気分転換でホーム前の道を通り、庭の花を眺めたり、野菜の成長を見に行きます。最近では庭の無花果が実り、皆で分け合いました。遠方の外出や個別外出は、家族の協力を得ながら実施しています。地域からお誘いを受けて、盆踊りや地域の行事にも参加します。2階のベランダで外気浴も楽しんでいます。ベランダには椅子、テーブルが置かれ、季節の花も植えられてゆったりと過ごします。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望にて買い物に行っている。希望があれば、自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、家族等に電話をして頂いている。又家族様より手紙が届くこともあり、一緒に読ませて頂きお渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング窓側には、ゆったりとしたソファがあり、くつろいで頂いている。玄関には、座って靴がはけるようベンチを設置している。壁面には、季節を感じて頂けるような掲示物を飾っている。居室、トイレ等も清潔を保っている。	ホーム内のロビーは広くて明るい雰囲気です。壁には近くの保育園児と一緒に作った「りゅうかの木」の貼り絵があり、その他季節の絵、習字、数々の貼り絵等利用者の作品で飾られています。明るい窓際にはゆったりとソファが並べられ、窓からは町の様子が眺められます。片隅には小さな和風空間も用意され、洗濯たたみや手工芸の作品作りの場として利用しています。2階の広いベランダにはベンチやテーブルを置き、季節の花も植えています。利用者はいつでも自由にベランダに出て町の動きを眺めながら外気浴や気分転換の場としても利用しています。廊下の壁面には利用者の顔写真を貼り、笑顔で訪問者を迎えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファにて、気の合った利用者同士、お喋りをしたり、うたた寝をしたりと思い思いに過ごしている。テーブルの配置も利用者の状態を配慮し工夫している。一人で居室で過ごしている時もそっと見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力で馴染みの家具や持ち物を自由に飾って頂いている。趣味で作った作品を飾っておられる方もいる。	居室の入り口には、家族と共に作った各々のネームプレートを掛けています。室内は明るく使い慣れた家具や仏壇、ドレッサー等を置き、家族の写真を飾っています。ハーモニカやトランペットが趣味の利用者は、演奏時の大きな自分の写真を壁に貼っています。また、手芸や木彫りが得意だった利用者は自身の作品を持参し、ぬいぐるみの好きな方はベッドの周りをぬいぐるみで飾っています。中には市内で和菓子の講習会に参加した時の修了書を、誇らしげに飾っている居室もあります。利用者一人ひとりが、個性のある居室で過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等は、分かりやすく表示し、床はバリアフリーになっており、各場所に手すりが設置してあります。		